

雇用へとつなげていきます。企業の方と利用者の方が雇用関係を長く継続するために、業務内容や必要な配慮をこちらからも提案しながら、働きやすい職場環境を作っていきます。就職が決まった際の利用者の喜ぶ姿がこの仕事の醍醐味ですね。

Q 企業開拓は、各スタッフが担当する利用者のために行うのですか？

金森 基本はそうです。ただ、スタッフには作業療法士・臨床心理士・精神保健福祉士がいますが、こういったことをしないリハビリや福祉の専門職もいます。あまり得意でないスタッフも多いので、企業開拓を苦にしないスタッフが担当者に代わって行うケースもあります。

北澤 私は企業開拓がどうも苦手で(笑)。

金森 とまあ、「どこでもいいから就職させる」というのではなく、利用者本人に合った職場を探すことが大切です。本人と合わない職場では、せっかく就職し

ても、あとでつらい思いをするのは本人なので……。

Q 就職後のアフターフォロー(定着支援)は、どのような形で行うのでしょうか？

金森 「障害者職業センター」(各都道府県に設置された施設)の研修を受けて、「ジョブコーチ」(訪問型職場適応援助者)という資格を取ったスタッフが行います。利用者の就職後、そのスタッフが最初は週二回、多い人では週四回、職場を訪問して、業務面やコミュニケーション、病状や利用者の思いや疲労度等を見ながら、必要に応じて企業側と利用者側の双方にアドバイスしたり、両者間にズレがあれば調整を行ったりします。慣れてきたら、週に一回、二週に一回というふうに、徐々に訪問頻度を下げていきます。

ジョブコーチが支援できる期間は約一年と決まっているのですが、「ワークネットきょうと」の場合にはそれ以後も、二ヶ月に一回とか、人によつては月一回くらいのペースで職場を訪問し、本人や現場の方の話を聞きます。そして、仕事上の不都合や病状の悪化などが起きていないかを確認し、もし起きていたら、その部分の調整を行います。ジョブコーチの支援期間が終了した後も必要であれば、訪問による支援を継続しています。

他の就労支援施設と比べた「ワークネットきょうと」の強みとして、スタッフ体制の厚さによるきめ細かいケアと、積極的な企業開拓、長いアフターフォロー、精神科における専門職の存在、の四つが挙げられると思います。

利用者和其他者をつなぐ「いろは」の役割

Q 「ワークネットきょうと」と並行して、生活面で精

生活訓練の場ですが、まずは生活を楽しくしていただけるように心がけています。



神障害者の支援を行っているのが「訪問型生活訓練いろは」ですね。

金森 ええ。「ワークネットきょうと」の事業所の二階が「いろは」になっています。精神障害のある方が自宅や地域で自立した生活を送られるために、訪問と通所による支援を行う施設です。「いろは」の中心スタッフとして働いているのが北澤です。

北澤 「いろは」には私を含めて三人のスタッフがいます。日によつて通所や訪問の担当は変更しますが、事業所にも通所担当スタッフが常駐し、ほかの二人が利用者のご自宅を訪問しています。訪問先では、じっくり話を聞いたり、相談に乗ったり、外出に同行したり、薬やお金の管理の練習をしたりします。

最初は訪問してもほとんど話すこともできなかった方が、訪問を重ねるうちに心を開いてご自分の話をしてくれることがあります。たくさん話をしてくれるようになったり、一緒にどこかに出かけられるようになる

就労することは

自己肯定感を高め、社会との

つながりを持つためにも重要だと思います

